

送子由使契丹

(子由の契丹に使するを送る)

元祐四年(一〇八九)九月、杭州に在つての作。蘇軾はこの年三月、乞うて杭州の知事になった。「子由」すなわち蘇轍は、八月、賀遼国生辰国信使すなわち「契丹」族の建てた遼国の国主の誕生日を祝う特使を命ぜられた。ときに蘇轍は翰林学士・知制誥・吏部尚書であった。

雲海相望寄此身
 雲海 相望んで 此の身を寄す
 那因遠適更沾巾
 那ぞ遠適に因つて更に巾を沾さん
 不辭駟騎凌風雪
 辭せず 駟騎の風雪を凌ぐを
 要使天驕識鳳麟
 要らず天驕をして鳳麟を識らしめよ
 沙漠回看清禁月
 沙漠より回看せん 清禁の月を
 湖山應夢武林春
 湖山 応に夢みるべし 武林の春を
 單于若問君家世
 單于 若し君が家世を問わば
 莫道中朝第一人
 道う莫かれ 中朝の第一人と

○雲海 水が雲に接して見える遠方。大漢和

雲と海。現在わが国で用いる雲の海の義ではない。○相望 遠く離れた二人が思いを寄せあうこと。

ここは、蘇軾が杭州に、蘇轍が都開封にあって、思いあうこと。○遠適更沾巾 適は往の義で、ここは旅すること。巾は手ふき。杜甫の「南征」の詩に「生を偷みて長に地を避け、遠く適して更に巾を沾す」とある。○

不辭 宋本は辭を詞に作るが訛字であろう。○駟騎 駟を駟に作るテキストもあるが、宋本に従う。駟も駟も

同義、『説文』に「駟伝なり」とある。二字ではやうま、つぎうま。○要 かならず、きつと。○天驕 驕は

傲の義で、あなどりおごること。二字は天帝にあまやかされておごっている子の意で、もとは匈奴族について

言われ、ここでは契丹族をさす。『漢書』匈奴伝に引く單于が漢にあてた書簡に「南に大漢有り、北に強胡有

り。胡は天の驕子なり」とある。○鳳麟 鳳毛麟角の意で、世に稀なすぐれた人材を言う。○清禁 清らかな

宮中の意。晉の傅咸の「懷を申ふる賦」に「穆穆たり清禁、濟濟たり羣英、鸞翔り鳳集い、羽儀 京に上る」

とある。○武林 杭州の別名。施注に杭州はもと虎林の称があったが唐の帝祖李虎の諱を避けて武林と改めた

とある。杭州はこのとき蘇軾のいる地。○單于 もと匈奴の王のよび名、ここでは遼国の国主をさす。○莫道

一句『新唐書』李揆伝に、盧杞に憎まれて入蕃会盟使に充てられた李揆が、吐蕃を訪れ、その酋長に、「聞く

唐に第一人李揆有りと。公 是れなるや否や」と聞かれたとき、ひきとめられることを恐れて、「彼の李揆

安んぞ肯て来らんや」と欺いたとある。

(君は都開封に私は杭州に)雲と海をはるかに隔てて心を寄せあいつつ世に仮りのやどりをする身であつてみれば、遠くへの旅だからといってどうして涙を流すことがある。駟馬を騎りついで風雪の中を旅することをいとわず、天のただっ子に中華のすぐれた人材をきつと教えてやりたまえ。沙漠の地から清らかな宮中に照る月を振りかえり眺めることであろう。また夢にみる湖や山はさぞや(私のいる)杭州の春景色のそれであろう。もしも單于が君の家柄をたずねたら、中国の第一人者だなどと決して答えてはいけないよ(——ひきとめられてはいけないから)。